

かけはし



P2 友好都市を知ろう！トレビーズフェア



P3 水と芸術のまちトレビーズ展



P6 おとなりの国、フィリピン



交流の花が
咲いています

P3 イタリア絵本の読み聞かせ



P5 親子でつくろう！
手で食べよう！



P4 びさいまつり



P5 見て・聞いて・食べて、世界を知ったよ



P7 日本語ひろば交流会



P6 みんなでつなげ！スポーツ交流会



一宮市は2005年の愛・地球博以来、イタリア共和国との交流を深めています。2013年にはイタリア・トレビーゾ市と友好都市提携を結び、さらなる交流の促進に取り組んでいます。



水と芸術のまちトレビーゾフェア

友好都市を知ろう！

i-ビル シビックホール・シビックテラス 11.1～2

友好都市の魅力を紹介するトレビーゾフェアがi-ビル3階と7階で行われました。あいにくの雨天にもかかわらず、どこも満席で人々は各会場を何回も行き来していました。

3階会場では、中部美容専門学校一宮校によるボディペイントが行われていました。保護者に見守られながら小学生の女の子が小さな頬にペイント、可愛らしい指にカラフルなネイルマニキュアをしてもらっていました。その表情は真剣そのもので、何歳でも美には熱心です。

同会場には今伊勢西小学校とイタリア・フォルティス小学校の絵手紙交流ブースもありました。イタリアの子どもたちが描いた純真で素朴な絵手紙を見ていると、つくづく世界は一つと感じられます。

7階シビックホール初日一番の公演、中部地方で活躍する声楽家が大集結したオペラでは、おなじみの名曲が次々と披露されました。本場さながらのすばらしい歌声は、ホールはもとよりビル中に響き渡るかのようでした。

同会場でのシニョール・ジジさんのギター演奏も、やはり私達によく聞き覚えのあるメロディが何曲も弾かれました。友好都市トレビーゾをスライドを使い紹介する、イタリア出身の国際交流員ヴァレンティーナさんのコーナーもありました。人口は約8万人、イタリアでは戦後もっとも発展した街の一つで、市内には様々な企業があり、高収入で裕福な生活をされている方が多いそうです。昨今うらやましい話ですね。そして古い建物や運河のある、長い歴史をもった街です。一度訪れて

みたいですね。（カモミール）



二日目の日曜日、3階シビックテラスのステージはマンドリンで幕開けです。奏者のアレックスさんが「みなさん

マンドリンはご存知ですか？」と質問すると、残念ながら会場の人達は知らないようです。「それでは少しご説明しましょう」とアレックスさん。「イタリアはマンドリンの生産量が世界一です。弦は同じ音が2本ずつ8本張られています。調弦はヴァイオリンと同じなんですよ」など、説明を交えマンドリンを演奏。日本の曲「桜」を演奏すると、たくさんの拍手が送られました。

7階シビックホールでは、世界アコーディオンコンテストで優勝したアンジェロさんのみごとな指さばきの演奏が会場に響き渡り、来場者は聴き入っていました。

続いて、音楽史家エドモンド・フィリッピーニさんによる「トレビーゾがどのようにヨーロッパ音楽に影響を与えたか」というテーマの講演が開かれました。トレビーゾ出身の作曲家達の作品とモーツァルト、ハイドン、ベートーベンなどを聞き比べると類似点が多く、彼らに多大な影響を与えたことが容易に私達にも想像できました。偉大な作曲家達もいろいろな地方の音楽家の影響を受けながら育ったという、おもしろいお話が聞けました。

（ドリアン）





堀尾一郎風景画と交流の軌跡

水と芸術のまちトレビーズ展！

三岸節子記念美術館 12.17～12.21

一宮市在住の洋画家・堀尾先生による、友好都市トレビーズで描いたスケッチを元に制作したガラス絵の大作や風景画など、約60点が展示されました。

他にも会場には、両市の小学生の絵手紙交流、中学生のトレビーズ訪問の様子、トレビーズの大学生が一宮市を訪問した時の交流の様子も紹介されていました。



会期中には、堀尾先生のスケッチ旅行の報告会も開催。講演で先生は

「古い城壁内の旧市街には、歴史的な石造りの教会や建物も多く、きれいで豊かな水が街の中を流れる風景がありました。創作意欲を沸き立たせた結果、緑の木を感性のまま赤く描き、道路標識まで絵の題材にしてしまいました。ここで描いた

絵は、赤に象徴された今回の作品群となりました」と語りました。

また、トレビーズの街の素晴らしさをスライドで紹介してもらうとともに、講演中にフルートの演奏も聴き、絵画と音楽のハーモニーも楽しむことができました。

先生は、今回の訪問でトレビーズ市長に一宮市長の親書を届け、その席上で「トレビーズで一宮市民の作品展を開き、市民交流を深めたい」と想いを伝えました。トレビーズ市長からは「ぜひ実現させてください」と言われたそうです。そのような市民間の交流がどんどん広がっていくといいですね。

(佐野)



ここはイタリアだよ～、

イタリアの絵本を一緒に読んでみよう。

中央図書館 11.12、11.19

一宮市立中央図書館の5階にある児童書エリアの一角に、「おはなしのへや」という部屋があります。

今回2週続けて国際交流員ヴァレンティーナさんの「親子で楽しむ外国絵本の読み聞かせ～イタリアを感じよう！～」という催しが開かれました。

小さなお子さん連れのお母さんたちが十数組集まり、会場は保育園のようなにぎわいです。子どもたちが駆けまわり、はしゃぎ声を出す中、ヴァレンティーナさんのイタリア語が聞こえてきました。



最初に、日本から飛行機に乗ってイタリアへ旅行する設定のお遊戯が始まりました。イタリアと日本との距離の遠さを、楽しみながら感じてもらうことが狙いです。

飛行機が現地に到着すると、さっそくヴァレンティーナさんは故郷ミラノに住む両親の紹介をしてくれました。お父さんがとっても美味しいピザを作ってくれるそうです。

この日の読み聞かせで用意された絵本は、色どり鮮やかですがにデザインの国のお国柄が感じられました。

色使いが日本の絵本とは違うことに子どもたちは気づいたのでしょうか。イタリアと日本との文化の違いを感じとってくれたのでしょうか。

イタリア語の唄を一緒に歌い、犬や猫の鳴き声を日本とは違った音で表現することを紹介するなど、楽しい企画がいっぱいだったこの読み聞かせ会は、にぎやかな声がする中終了しました。(you都市)

楽しかったね!! びさいまつり

尾西第一中学校 10.25～26

尾西庁舎から南方面、遊歩道と化した路上を中心に中学校までを会場にして、恒例の“びさいまつり”が開催されました。今年は2日間とも天気恵まれ、少し暑いくらいでした。

国際交流協会のブースは尾西第一中学校の校門近くにあり、入るとすぐ分かる場所にありました。25日のイベントは午前がイタリアのクリスマスカレンダー作り。これは12月のカレンダーで1日から24日までが1本の紐に横に並びます。まるで日めくりカレンダーが横に並んだようなものです。

ただし日本の日めくりと違ってペラペラの1枚ものではなく、色々な絵が描いてあるポチ袋を使います。そしてその袋に1から24の数字を書き入れ、その中にキャンディをひとつずつ入れておきます。それを紐に1から順にぶら下げます。もちろん25日のクリスマス当日には、大きなプレゼントも用意されています。

イタリアの子ども達は目の前にぶら下がっているキャンディやプレゼントをお行儀よく毎日、毎日楽しみにしながらクリスマスまで待っているのかな？



午後からは『国旗かるた』が行われました。1ゲーム数人でレジャーシートの上に輪になってのカルタ取りです。B5サイズくらいの国旗が描かれたカードを参加者で取り合い、枚数を多く取った人が勝ちでご褒美がもらえます。もちろん参加者全員にも参加賞のお菓子がわたされました。

さてこのカルタですが読む人は“日本”と国名を直接言うのではなく、“白色に、赤の日の丸、日本国、特徴；島国、国土70%が山”と言うように読み上げます。分かる人は“赤の日の丸”あたりでカードに手を伸ばします。

今回用意された国旗カードはアメリカ合衆国、ブラジル連邦共和国、中華人民共和国、イタリア共和国などのほかに、大人でももしかしたら分からないかもしれない南アフリカ共和国、ケニア共和国など22ヶ国と、スイス連邦とまぎらわしい国際赤十字社のカードも使ってチョッピリお勉強もしました。みなさん少しはおぼえられましたか？
(雲谷齋)



26日はこんなイベントをやりました！



キーウィのペーパークラフト



世界の遊び体験(写真はイタリアのじゃんけん)



♪親子で楽しく学んだよ♪



親子国際理解ワークショップ

つくろう！手で食べよう！アジアのカレー

尾西生涯学習センター 11.29

広報や学校で配布されるキッズ・アイでこのイベントを知ったという親子が、10組23人参加しました。進行はAIS（あいち国際理解教育ステーション）の方々と、世界の異文化を知ることがテーマに、バングラデシュのカレー料理を作り、現地の習慣にならって手で食べる体験型のワークショップでした。

はじめは会議室で仲間意識を高めてから、料理室に移動しチキンカレーをつくりました。部屋中がスパシーな香りでいっぱいになりました。チキンを入れた後は、料理ボランティアのみなさんに続きを任せ、参加者はカレーに使うスパイスの種類や説明を聞きました。日本の出来あいのカレーを入れる作り方とは違い、現地では20種類以上のスパイスやハーブが入ります。実際のスパイスを嗅ぐこともできました。

いよいよカレーが出来上がって、手で食べる体験では、右手だけを使って食べることに挑戦。み

なさんの感想は「美味しい、スパシー！」、「お行儀が悪く感じる」や、「手で食べると早く食べられな



いから、逆に味わえるなー」など、色んな意見がでました。AISの方が紹介した、日本でもおむすびやお寿司は手で食べるし、マナーは国によって色々であること、またカレーなどを手で食べる国の人是指先で味わうという話が印象的でした。

最後にスパイスのお土産付きだったので、家でも本格的なカレーを楽しんでください。

(みかん)

親子国際理解セミナー

見て、聞いて、食べて、ゲームして、世界の国を知ったよ

JICAなごや地球ひろば 1.18

今年の親子セミナーは、JICA中部なごや地球ひろばと名古屋市科学館の見学です。参加者は抽選により選ばれた40人（おとな17人、子ども23人）です。

まず10時になごや地球ひろばに到着。上級生と下級生に分かれて館内を見学しました。

1階展示室では開発途上国で国際協力の経験をもつガイド役（地球案内人）による説明を受け、「貧困」「教育」「保健」「環境」などをテーマにした展示を通じ、世界の現状や直面する課題を学びました。また日本の食糧の大部分を外国に頼っていることなども知りました。



2階ではシリア、ガーナ、ネパール、パラグアイなどの特産品を地図を見ながら説明を受け、そのあと輪になって各国の「国旗」を使っ

た椅子取りゲームをやりました。子どもたちはワイワイいって楽しんでいましたよ。

お昼には世界の食材を使った特製ランチをいただきました。

参加者に聞きました。足立美総さん（小3）はお肉50gを作るのに水1,000L使うという説明に驚き、妹の安美さん（小1）は国旗の椅子取りゲームが楽しかったそうです。中野陽くん（小5）は水を吸い上げてろ過機に入れる自転車こぎが面白く、妹の泉花さん（小2）は日本人が一日250Lの水を使うのに対し途上国では5Lしか使えないという話が印象的だったそうです。

食事のあとは名古屋市科学館へ行き、プラネタリウムやいろいろな展示物を見て、時間がたつのを忘れて楽しみました。（橋本）





フィリピン文化セミナー



尾西生涯学習センター 12.7、14

一宮市にはフィリピンの方々がたくさん生活しています。でも私達は、フィリピンについてあまり知らないのではないのでしょうか。文化や料理を通じて、フィリピンを理解してもらいたいと二日間のセミナーが開催されました。講師は一宮フィリピンコミュニティ代表の木村エリンダさんとその友人の方々です。スライドを使ってフィリピンのきれいな自然、スペインやアメリカ統治時代もあった歴史や文化の紹介がされました。つづいてグループ形式で、フィリピン人と日本人の交流について話し合われました。意外だったのは、両国の人々が交流する機会が少ないことです。フィリピンの方が日本語が読めずにゴミ出しを間違えてしまったりすることもあるそうです。すると、「そんな時には遠慮せず気軽に聞いてね」と、笑顔で声かけられました。

初日の最後は赤や青のきれいな衣装の民族舞踊が披露され（表紙の写真）、参加者全員で一緒に踊って楽しみました。このような気軽に国際交流が進められる場やプログラムがあるといいなど、意見が聞かれました。（ドリアン）



文化セミナー2日目、総員23名が、講師のセシルさん指導のもと日本の雑炊、三時のおやつのような“ティノラング マノック”“ルピアン タウゲ”“ギナタアング

ビロービロ”を作りました。

作り始めてしばらくすると、皆から笑顔や冗談がこぼれるようになりました。出来上がった料理はフィリピン式に、大皿に盛られた料理を各人が自分の小皿にとって食べ、なごやかなうちに終わりました。

フィリピンでは子どもだけを残して外出することは許されないそうで、フィリピン人の参加者が連れてきたお子さんを、他の参加者が面倒を見てあげる一幕もありました。アットホームな雰囲気にも包まれていたセミナーでした。（ゆめみるゆめこ）



みんなでつなごう！ソフトバレーボール



総合体育館 1.25



優勝したベアーズのみなさん

パパがんばって!



昨年の約1.5倍135名の参加があった国際スポーツ交流会は、初めて顔を合わせた小学1年生から80代の方までが18チームに分かれてまずは作戦会議。ルールも分からず始めた人も、高校時代バレー部だった留学生も、試合が進むにつれて「ナイスファイト!」と声を掛け合い、年齢や経験、国の差を縮めていきました。

コートの外で出番を待っている間にも会話が弾みます。英語じゃないと外国の人とは話せないと思っていた中3の中谷仁美さんも「ウズベキスタ

ンはウズベク語の他にロシア語も話されていることや、日本と違う文化について日本語でいろいろ話が聞けてとても嬉しかった。バレーの腕もあがったかも」と話していました。

とっさに足で打つ人、頭でレシーブする人ができるほど熱が入った試合も、木曾川文化・スポーツクラブのみなさんの運営協力のおかげで順調に終わり、お菓子を食べながら笑い声に包まれた表彰式で交流会を閉じました。

(ミルクチョコ)

wai-wai-a フォトサロン

日本語ひろばのゲストとボランティアのみなさんで、クリスマスイベントがにぎやかに開催されました。

日本語ひろばジュニア クリスマス会 12.13

そば、ホットドッグ、ケーキ おいしい



みんなでケーキ作り



リーチだよ!
ビンゴゲーム
たのしいな



外国の珍しい料理がいっぱいだよ



日本語ひろば ポットラックパーティー 12.14

二人でゲーム
おもしろい



から〜い、
たこやき
ゲーム



日本語ひろばびさい お楽しみ会 12.21

じゃんけんゲームまけちゃった

きゃー、私のいすはどこ?



(akeharu)

それでも、楽しいよ！ 大学生のケニア・インターン生活

大学2年生 森 雅典（一宮市）

2014年8月からケニアの西部ニャンザ州の街ミゴリでボランティア活動をしています。僕の活動は主に木の苗を育てて売ること、その他には現地の高校で授業後にラグビーを教えています。

僕の住む地域には電気ガス水道はほぼありません。僕のホームスティしている家もちろんそうで、生活に必要な水は雨水を貯めたタンクと井戸から、料理は薪で火を起し、携帯電話の充電は電気の通っている売店で、という暮らしです。テレビもないパソコンもない、日本とは全然違う暮らしですが、毎日とても楽しいので、人生を楽しむためにテクノロジーは必ずしも必要じゃないんだな、ということに気付かされます。

そんな生活の中で「木」はとても重要な資源で、上に書いた薪としての利用はもちろん、家を建てる建材としても重宝されています。そのためケニアの人々は生活のためにたくさん木を切り、ケニアの森林面積は年々減少している、というのが現状です。この問題を解決する役に少しでも立てればと思い、種から木を育てて、ある程度成長したら現地の人々に安く売る、というプロジェクトを始めることにしました。ですが、農業経験の全くない僕はケニアという慣れない土地で何から始めればいいのかさっぱりわからず、初めは言いだし

っぺのくせに周りに言われるがままただひたすら動く毎日でした。学校の先生や農家の人、生徒たちにもいろいろなことを教えてもらい、今はようやく「自分の畑」



として見られるようになり、12月末現在でなんと1万本の苗木を育てることが出来ました。

よくケニアで「日本とどんなところが違う？」

と聞かれますが、僕は決まって「違いすぎて説明できない」と答えます。違いすぎて比べるのはナンセンスです。

日本の感覚でいうと、ケニアの人々は時間にルーズで必ず遅れてくるし交通マナーもない、道を歩けば金をくれとせがまれる、とんでもない国です。ですがそれをとんでもないと思うのは僕が日本人だからで、ケニアの人からしたら当たり前のことです。これらの違いを全て「良いこと」として肯定する必要はないですが、批判的に見ていたら精神的にまいってしまいます。ケニアに来てすぐはこの違いに苦しめられましたが、相手の文化を柔軟に広い心で受け入れる、この国で変なのはいつも日本人である僕なんだ、と思うようにしたら少し暮らしやすくなりました。

ケニアの人たちは初対面でもとてもフレンドリーで、Karibu (welcome) の精神で溢れています。あるとき、僕が畑で夢中で働いていて昼ご飯をすっかり忘れていたことがありました。そのとき1人の学校の先生が来て、「誰か1人でも欠けてたらご飯が美味しくなくなっちゃうから明日はちゃんとおいで」と言ってくれました。もちろんそれは社交辞令的な発言ですが、そうだとでもこんなことが普通に言えるなんてすごいなあ、と思いました。

日々ケニアの人たちの暖かい心に支えられて生きています。無力な僕ですが、そんな人たちの力に少しでもなればと思い、今日も日に焼けて泥だらけになりながら働いています。



編集後記

今や海外旅行はめずらしくありません。しかし、危険性が減ったわけではありません。たのしい旅行の自由行動中に、地元のアイスクリームを食べたり、ジュースを飲んだり、レストランでの食事のあとで、激しい腹痛や下痢に見舞われた方が私の周りにいます。海外旅行の安全は、まず身近な“食”からのようです。では、安全に気をつけて、行ってらっしゃい！（ドリアン）

発行 一宮市国際交流協会 (〒491-8501 一宮市本町2-5-6 一宮市生涯学習課内)

ご意見・ご感想お待ちしております 【TEL: 0586-85-7076 E-mail: iia-138@iia-138.jp】

当協会に関する情報はウェブサイト・Facebookページもご覧ください

【WEB: <http://www.iia-138.jp/> Facebook: <https://www.facebook.com/iia138/>】

*この「かけはし」は、協会ボランティアにより取材・編集されています。